新幹線プレス

2012年9月14日	No.72
発行者	成　田　隆　浩
編集者	教　宣　部
ＪＲ東海労新幹線地本	

原発ゼロは亡国　犠牲は覚悟せよ

葛西会長が新聞で原発推進の暴論

葛西会長が９月９日の読売新聞で「国益に背く「原発ゼロ」」と称してまたしても原発推進の暴論を主張している。原子力発電は「日本の産業を守り、日本人の雇用や生活水準を維持する必要条件」、原発をなくせば「産業は衰退し、人は生活の手段を失い、貧困化する」「日本は亡国の世界史に新たな一ページを加えるだろう」と大変な騒ぎ振りである。

葛西会長が原発ゼロに対して大変な危機感を抱いていることはよくわかる。世の中の多くの経営者と同じく、「日本」「日本人」の将来を心配しているように見えるがその実はJR東海の経営のこと、とりわけリニア建設の展望への不安であるのは間違いない。

葛西会長が原発ゼロに大きな危機意識を抱く理由はひとえに電力の供給量と価格とコストということに尽きる。

福島第一原発の事故によって広範囲な放射能汚染がもたらされ、日々被ばくの危険の中で生活を送る人々や、住みなれた町や村を捨てて「避難」せざるを得なくなった人々、原発の廃炉も使用済み燃料の処理も全く展望がないこと、このような悲惨な状況については何も語られない。いやそれどころか、「**リスクと共存**」「**どこまでリスクを制御・克服し、覚悟を決めて運用するかだ**」と葛西会長は主張する。つまり原子力発電のリスクをゼロにできないことを認めざるを得ないということだ。にもかかわらず、「リスクと共存」とか「覚悟を決め」ろと主張するのは、汚染された土地に暮らさざるを得ない人々・住みなれた町を追われた人々・高濃度の汚染の中で作業を続けている原発労働者を見捨てろということだ。

葛西会長の暴論にいちいち反論する必要はない。葛西会長よ！汚染された地に住む福島の人々、避難生活を送る人々、原発労働者の前で、リスクと共存すべき・覚悟を決めろと声を大にして訴えてみよ！そんなに原発が必要ならJR東海本社の前に原発を建設してみよ！

人々の犠牲を承知で企業の利益のみを追求する葛西会長は直ちに辞めろ！